（事例２）iPad をコミュニケーション指導に活用する

高等部１年女子。知的障害があり理解力に比べて発話など表現に困難がある。対人関係は非常に良好でジェスチャーや表情などで会話には積極的である。担任からは、「タブレット端末などを会話の補助として活用する方法について知りたい」という相談であった。

日頃の生活や学習の様子を聞き取り資料にまとめた上で、担任と一緒に香川大学坂井研究室を訪問しアドバイスを得た。坂井教授からは知的障害はあるがコミュニケーションの意欲が高い生徒の場合、手段の検討が先行して語彙や会話内容理解の不十分さが見落とされがちであることを指摘された。そこでコミュニケーション手段は従来の方法のまま、まずは会話を継続できることを目指して指導することになった。デジタルカメラやタブレット端末で撮影した写真を媒介にして教員との会話を２～３往復続けられることを目標とした。寄宿舎や家庭の協力も得られ指導を継続している。発話困難な生徒のコミュニケーションでのタブレット活用というとＶＯＣＡとしての活用をイメージしがちだったが新しい視点を加えることができた。

※　本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-292　特別支援学校（肢体不自由）の AT・ICT 活用の促進に関する研究－小・中学校等への支援を目指して－」(平成 26 年 3 月)，46 に記載された内容である。